

医療福祉技術分科会

★第3回福祉技術シンポジウムはおかげさまで無事終了致しました

開催報告（3、4ページ）を御覧ください。

「第3回福祉技術シンポジウム」

- 開催日時：
 - 平成13年10月25日(木) 10:00～19:30
- 開催場所：
 - 東京都江東区青海2-41-6（ゆりかもめ「テレコムセンター駅」下車徒歩3分）
 - <シンポジウム・総会> 産総研臨海副都心センター 4階 会議室
 - <交流会> TIME24 スカイレストラン シーガル
- 参加費：
 - シンポジウム参加費 1,000円（資料代）
 - 交流会参加費 5,000円
- 主催：
 - 産業技術連携推進会議 福祉技術部会
 - 財団法人 日本産業技術振興協会

プログラム

10:00～10:10 開会式

- 挨拶 産技連福祉技術部会部会長 斎田真也（人間福祉医工学部門長）

10:10～11:50 一般講演1

- 10:10～10:30 産学官連携によるベッド開発への新しい試み
 - 山羽 和夫（日本福祉大学）、山口 裕、野村忠生
- 10:30～10:50 空気循環型消臭機能付きマットの開発と介護空間の快適性向上技術
 - 岡本波留海（埼玉県工業技術センター-南部研究所）
- 10:50～11:10 パワーアシスト運搬台車の開発
 - 若生進一（茨城県工業技術センター）、佐川克雄、平野 聡
- 11:10～11:30 段差越えができる電動車椅子
 - 山本光男（愛知県工業技術センター）
- 11:30～11:50 座位における接触圧力評価のための試験装置の試作及び測定評価
 - 椋代 弘（岡山県工業技術センター）、永山則之、辻 善夫

11:50～12:30 福祉技術部会総会

- 11:50～12:20
 - 国からの報告1 産業技術環境局技術振興課 産業技術総合研究所チーム長 伊藤毅志
 - 国からの報告2 商務情報政策局サービス産業課 医療・福祉機器産業室長 岡倉伸治
- 12:20～12:30
 - 事務局からの報告 産総研福祉技術部会事務局長 池田喜一

12:30～13:30 --- 休憩 ---

13:30～14:20 特別講演

- 「使い易い福祉機器開発の考え方」
 - 小嶋 寿一（滋賀県立福祉用具センター-参与）

14:20～15:40 一般講演2

- 14：20～14：36 東京都健康福祉研究会－機器開発後の課題とその顛末－
 - ○岡野 宏（東京都立産業技術研究所）
- 14：36～14：52 居住空間と身体機能に配慮したユニバーサルデザイン家具の開発
 - ○宮川成門（岐阜県生活技術研究所）、堀部 哲、木村公久
- 14：52～15：08 バリアフリー住宅設計支援システムの開発
 - 立川英治、○田中泰斗（岐阜県生活技術研究所）
- 15：08～15：24 人にやさしいデザイン開発の推進
 - ○平田一郎（兵庫県立工業技術センター－産業デザインセンター）、真鍋元保、稲葉輝彦
- 15：24～15：40 高齢者身体特性計測結果
 - ○恒屋修一（（社）人間生活工学研究センター）、土田一雄、吉岡松太郎

15：40～15：50 --- 休憩 ---

15：50～17：10 一般講演3

- 15：50～16：10 ペア－ホールタオルの開発とその有用性について
 - ○東 忠宏（大阪府立産業技術総合研究所）、赤坂長吉、佐藤由紀子
- 16：10～16：30 心身障害児・者のためのコミュニケーション支援機器の開発
 - ○佐野禎彦（静岡県静岡工業技術センター）
- 16：30～16：50 低出生体重児向け無拘束心拍・呼吸監視装置の開発
 - ○松本佳昭（山口県産業技術センター）、吉木大司、塚原正人、田中正吾、立石 浩
- 16：50～17：10 高齢者生活状況確認システムの開発
 - ○清水俊治（富山県工業技術センター）

17：10 閉会挨拶

- 財団法人 日本産業技術振興協会技術情報部長 林 龍一

17：30～19：30 交流会

同期間開催 「第28回国際福祉機器展」展示

医療福祉技術分科会

「第3回福祉技術シンポジウム」開催報告

2001年11月13日

2001年10月25日（水）10：00から、産業技術総合研究所臨海副都心センターにおいて、「第3回福祉技術シンポジウム」が、149名の参加者を得て、盛況のうちに開催されました。広い会場が一杯となり、活発な意見交換も随所で行われる意義のある会となりました。

シンポジウムは、産技連福祉技術部会の斎田真也部会長の挨拶で始まり、途中総会を挟んで、14件の一般講演、滋賀県立福祉用具センターの小嶋寿一参与の特別講演が行われました。最後に主催団体を代表して技振協の林専務理事の挨拶で閉会となりました。

同時に、国際福祉機器展では福祉技術部会のブースを設け、8件の研究課題の成果展示、福祉技術部会ホームページの紹介を行いました。来場者から活発な質問が相次ぎ、有意義な展示となりました。

総会では、国からの報告として、経済産業省産業技術環境局技術振興課産業技術総合研究所チーム長である伊藤毅志氏、商務情報政策局サービス産業課医療・福祉機器産業室長である岡倉伸治氏から、福祉技術に対する取り組みや予算に関する説明があり、国として非常に重要視している分野であるとの言葉がありました。

交流会には50名の方が参加し、斎田部会長の挨拶に続き、後援団体の産総研の曾我直弘理事（臨海副都心センター所長）の乾杯で会が始まりました。会場のおちこちで話しの輪が広がり、まさに交流会といった様子でした。その後、斎田部会長の中締めで閉会しました。

部会長御挨拶（開会式にて）



- 「第3回福祉技術シンポジウム開催に当たって」 →本PDFの5ページ目に掲載
 - 産技連福祉技術部会部会長 斎田真也

福祉技術部会の発足の経緯や、福祉技術分野の重要性、その中であって今回のシンポジウムの企画などについて紹介がありました。

一般講演



講演は、評価技術を始めとして、機器開発、臨床試験、さらには商品化における課題等に至るまで、実体験を基にした発表が行われました。質問も活発に出され、福祉技術に関わる方々の熱心さが伺われました。

小嶋先生の特別講演



- 「使いやすい福祉機器開発の考え方」（講演要旨）
 - 滋賀県立福祉用具センター参与 小嶋寿一

福祉用具の定義から説き起こされ、現在の用具開発に見られる問題点、さらには開発の際に考慮すべき事が、実例を交えて紹介して下さいました。

講演でデモをして下さった各種自助具は講演後の休憩中会場に展示され、人だかりができて大変な注目を集めていました。

国際福祉機器展の当部会ブース



展示内容一覧

国際福祉機器展という場に参加することで、8件の開発事例はもとより、福祉技術部会の活動も、多くの方々に理解して頂いたのではないかと思います。

交流会

(TIME24ビル・スカイレストラン「シーガル」にて)



シンポジウム終了後の交流会は、遠隔地から訪れた方々も交えた、貴重な情報交換の場となりました。

参加者内訳
産総研 14
国関係 3
公設試 69
企業 31
法人 9
福祉病院 8
学校 10
個人 5
計 149名

「第3回福祉技術シンポジウム」開催に当たって

産業技術連携推進会議福祉技術部会会長 齋田真也
(産総研人間福祉医工学部門長)

2025年には65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が27%を越え、さらに75歳以上の後期高齢者の割合が15%を越えると予想されています。75歳を越えると多くの人は身体機能が低下し、介護問題と直面することになります。一方、介護を期待する子共の数は低下し、女性は社会に進出しています。また、家族構成を見ると高齢者を含む三世帯世帯は減り、高齢者同士あるいは高齢者単独世帯が増えています。このような状況の中、科学技術会議の科学技術基本計画では、「安心・安全で快適な生活ができる国」を目指すことと記述されており、福祉分野の技術開発が期待されているところであります。

このような背景の中、産業技術連携推進会議福祉技術部会は、平成11年10月28日に、全国の福祉技術に関係する行政、研究、開発、ボランティア、個人など様々な立場、領域の賛同者350名ほどが会員となって発足しました。経済産業省および独立行政法人産業技術総合研究所が事務局となって運営している公的組織です。福祉技術部会は、福祉技術に関心のある方なら、どなたでも会員になれます。会員の相互協力により、福祉技術の実用化、技術力の向上、情報の収集・発信・共有化を図ることなどを目的としています。

「第1回福祉技術シンポジウム」では、通産省関連の国立研、公設試関係、大学関係、企業一般の方達を併せて178名の参加者があり、また、昨年東京都北区「北とびあ」つつじホールにおいて行われました「第2回福祉技術シンポジウム」では、240名の参加者がありました。共に、会場での講演、質疑応答が多くその熱気は凄いものでした。

前回までの意義深いシンポジウムの成果を受け、今回は、東京ビッグサイトで行われる「第28回国際福祉機器展」の会場に近く、また開催機関の中日を選び気軽に参加していただけるように配慮させていただきました。

今回のシンポジウムに伴う企画は、(1)福祉技術シンポジウムの開催、(2)福祉技術部会の総会の開催、(3)国際福祉機器展への出展であります。広く会員の成果を普及し、社会への貢献を高めて行くものであります。また、本シンポジウムは、本部会と財団法人日本産業技術振興協会との共催で行いました。ここに同協会を始め会場設営や受付などの諸事に御尽力頂きました産総研臨海副都心センターおよび産総研つくばセンターの方達に心から感謝の意を表します。